

主体的に心身の健康や安全に配慮した生活ができる子の育成

～地域全体で Quality of Life の向上を目指して～

岐阜市立茜部小学校

1 学校紹介

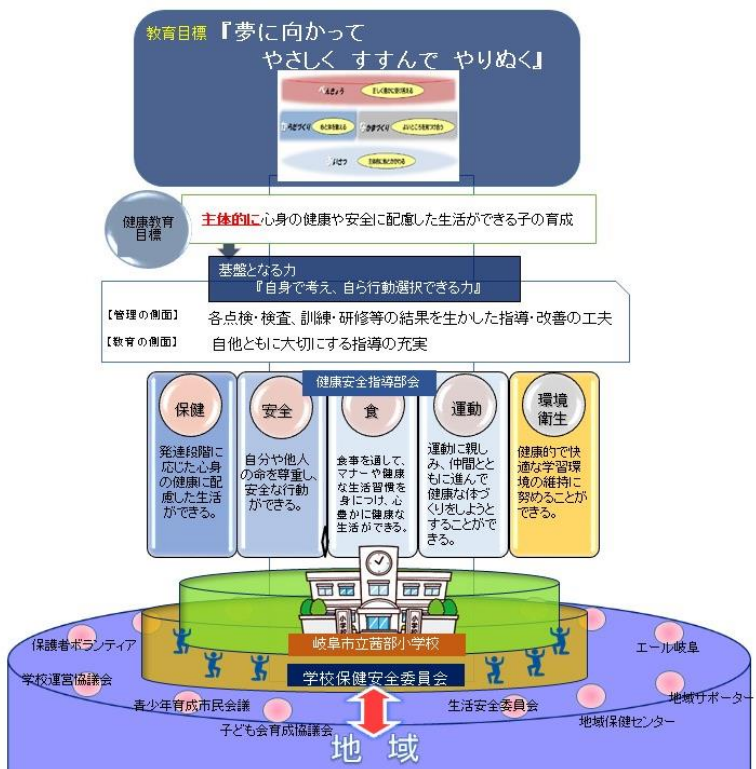
本校は岐阜市の南部に位置し、今年で創立138年を迎える。校舎からは織田信長ゆかりの岐阜城を見ることができ、27学級802人が学び舎としている。所在地である岐阜市は県庁所在地であり、市内の中心部を清流長良川が流れ、1300年の歴史を誇る長良川鵜飼など歴史が息づく街としても知られている。子供たちは、このような歴史文化や四季折々の自然あふれる環境の下で、すくすくと育っている。



校区は、「岐阜県地域子ども支援賞」を県知事から表彰される等、地域の支援活動が活発で、学校・家庭・地域が三位一体となり、教育活動を推進している。

2 学校経営方針と健康づくり

本校の経営方針「**あ**いさつ **か**らだづくり **な**かまづくり **べ**んきょう」を基軸とし、健康教育目標を「主体的に心身の健康や安全に配慮した生活ができる子の育成」と設定している。活動において重点としていることは、健康づくりの主体は子供自身であり、幸せな人生を送るための資源である「健康」の保持増進に向けて、自身で考え自ら行動選択できる力を育むことである。そのために、様々な場面で、子供たち自身に考えさせることを意図的につくり、主体的な態度の育成を図っている。



る。「健康」という幸せな人生を送るための資源を、不断の努力によって自分自身で築き上げる体験を通し、子供たちの将来を見据えた Quality of Life の向上を目指すことを、本校の健康づくりでは大切にしている。

3 健康づくりの推進体制

健康づくりは、様々な教育活動を意図的・計画的・発展的に関係づけ、全ての教育活動を通して推進している。その中心となる健康安全指導部会は、健康教育全体計画を基に、組織力を生かして活動に取り組んでいる。部会内は、保健、安全、食、運動、環境衛生と細かく役割分担することで、より綿密な計画・取組ができるようにしている。また、それぞれの担当者が連携を図ることによって相互作用が働き、教育・管理面の両面の活動が充実するような体制を整えている。

4 健康教育推進の観点

(1) 保健

①教育相談

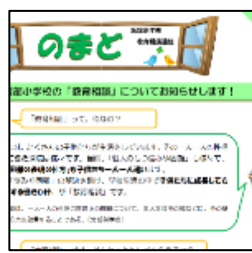
本校では、誰もが安心して過ごせる学級・学校をつくるために、いじめ対策監が主導し、いじめの未然防止と早期発見・早期対応に向けて、全校体制で取り組んでいる。毎月3日に「いじめを見逃さない日」を設定し、校長やスクールカウンセラー、外部講師等の様々な立場からメッセージを発信している。学級では、各月に実施している「こころのアンケート」の活用や教育相談週間、「よいこと見つけ」等の取組を充実させている。また、子供たちは人権週間の中で、対象を広げたよいこと見つけの取組「全校しあわせチャレンジ」を行ったり、昼の放送で仲間のよさを全校に広めたりして、互いに尊重し合う関係づくりに向けて子供たち自ら行動を起こしている。こうした取組を通じて、他者のよさに気が付く心の豊かな児童、生涯にわたってよりよい生き方を目指して行動できる児童の育成を目指している。また、校内体制としては、スクールカウンセラーや不登校支援をするほほえみ相談員、養護教諭の複数配置を生かし多様な心身の健康課題の



【褒め言葉のシャワー】



【いじめ対策監】



【教育相談通信】



【中学校区連携】

支援にあたる体制を整えている。更に、進学先の中学校や外部の専門機関である岐阜市子ども・若者総合支援センター“エールぎふ”と、登校しづりや不適応行動等について共通理解を図り対応している。エールぎふには、子供や保護者、教員が相談することができ、こころの安定を図ることや、人間関係の再構築を支援すること、子供・家庭への支援方法を三者で検討する等、連携を図る体制が整っている。



②歯・口の健康づくり

歯・口の健康づくりは、生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培う教育題材としてとても有効である。本校では、全学年で担任及び養護教諭あるいは学校歯科医とのTT授業を実施し、自分の歯・口の健康課題を見付け、課題解決のための方法を工夫・実践できる資質・能力の育成を目指している。指導案作成や教材準備には、生涯にわたって健康の保持増進ができるよう、地域医療に携わる学校歯科医が参加している。

【学校歯科医ビデオレター】 【全国歯みがき大会】 【ランチミーティング】 【教材開発】



現在、コロナ禍で「新しい生活様式」に合わせ、給食後の歯みがきは「5つのルール」を追加し、場所や人数を限定するなどの対策を講じて実施している。そして、今まで学校で行っていた歯垢の染め出し検査を自宅での親子活動にし、実施した画像をタブレット提出することに変更した。また、今まで長期休暇のみに活用していた歯みがきカードは、365日の全日チェックに変更し、家庭での親子活動へと移行しつつある。



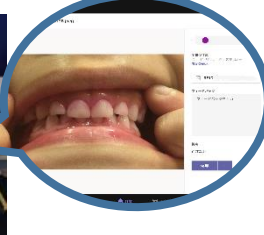
【5つのルール】



【3密を防ぐ歯みがき】









【健康づくりも ICT 活用】



(2) 安全

児童に「自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる」資質や能力を育て、安全に関して適切な意志決定や行動選択ができる子の育成を目指している。

「自分の命は自分で守る」をキーワードに、あらゆる場面でも安全な行動がとれるように「体験的な学び」を仕組んでいる。特に交通安全や災害安全においては地域の方と共に考えることで、個人だけでなく地域全体として安全意識が高まるよう取組を進めている。

【活動の一例】 交通安全		生活安全		災害安全(年6回)	
					
交通安全教室	シートベルト体験	不審者対応	AED訓練	D I G訓練	地域訓練

子供たちは様々な体験的な活動を通し、自分たちの学校生活を振り返り事故防止に取り組む行動を起こしている。事故が発生した場所の統計をとり、新しいルールを考える等、自分たちの安全な暮らしへ向けて自ら行動する姿へと変わりつつある。



(3) 食

食に関する指導は、学校・家庭・地域との連携があつてこそ豊かな学びになると考え、三位一体となる取組になるよう食育推進委員会を開催し、健全な食生活に向けて推進している。本校では「食農教育」に取り組み、「食」とそれを生み出す「農」についての体験活動や生産者と消費者との交流活動を取り入れ、食料の大切さや生産者に関わる人々に対して感謝する心を育むための手だてにしている。授業には、地域の生産者をゲストティーチャーとして招き、一緒に活動することを通して、子供たちに地域の人々の生き方や地域のよさに気づかせている。また、県主催 GIFU 食マイス

タープロジェクト事業の活用や全校で食に関するお手伝いの取組「家庭ボランティア」をしたり、親子でできるレシピ等を学校HPに掲載をしたりすることで、家庭との繋がりを生み出している。



【地域講師・米づくり】



【家庭連携・
家庭ボランティア】



【家庭連携・
食育マイスター】



【交流・感謝する心】

(4) 運動

学級対抗縄跳び大会や県内学校対抗で記録を競い合う「チャレンジスポーツ in 岐阜」等を活用し、目標を持って楽しく運動する機会を作っている。また、様々な外部講師を招き、憧れのトップアスリートや身近な先輩と触れ合い、指導を受けることで、憧れから運動に対する欲求を高め、スポーツが本来持っている楽しさを再確認し、それが将来を見据えた継続的な運動習慣を身に付けるきっかけとなるように、外部機関との連携を図り、取り組んでいる。



【校内縄跳び大会】



【チャレンジスポーツ in ぎふ】



【外部講師・近隣諸大学】



【外部講師・
トップリーグ選抜】

(5) 環境衛生

学校環境を適切に管理することは、健康安全面や学習の効率化を図るなどの「保健管理の視点」、また、活動を通して子供たちが、主体的に考え行動する子供の育成を目指す「保健教育の視点」からとても重要と捉えている。これらの視点を柱として、校内のチーム力を発揮させると共に、家庭・地域との連携を図り、子供たちが主体的に考え行動する姿勢を身に付けていきたいと願っている。

①学校薬剤師との連携

本校の強みは学校薬剤師との連携である。健康教育の土台を固める定期環境衛生検査の取組は勿論のこと、子供たちの常時活動や委員会の時間に一緒に活動し、教職員と同じ立場で、主体的に考え行動が取れる子供たちの育成を目指している。



②重要な役割を担う学校保健安全委員会

健康づくりを支えているのが学校保健安全委員会である。課題が委員から提案されると各委員の立場で解決策が講じられないかと検討するとともに、それぞれの立場で課題の解決に向けた取組が実施される体制が整っている。教室の照度不足が話題となった際には、照明の清掃をPTAが計画・実施した。また、学校の感染症対策のために保護者ボランティアが立ち上がり、支援する活動も行われた。このような学校、家庭・地域が一体となって取り組む姿に子供たちは大きな影響を受けている。

③主体的に考え行動する子供たちへ

家庭・地域や学校薬剤師等から学ぶ本校の子供たちは、自分たちの健康や快適な学習環境を維持するために自ら考え、行動している。子供たち自らが、暑さ指数(WBGT)測定やCO₂モニターによる教室の二酸化炭素濃度測定等を行うことに加え、快適な環境を保つためのルール作りをしたり、全校に呼びかけたりする等、主体的に心身の健康や安全に配慮した生活をしようとする姿が育ちつつある。

5 まとめ

本校の健康教育推進の観点である保健・安全・食・運動・環境衛生の取組は、脈々と受け継がれている。この推進体制と、家庭・地域との質の高い連携を生かし、生涯を見据えた Quality of Life の向上を図る力を育む取組を継続していきたいと考える。そうすることで、この茜部小学校を巣立ち、やがて地域で活躍するであろう子供たちが、6年間の小学校生活で培った健康づくりへの意識を地域へ広げ、この茜部小学校の地域全体で、健康で安全な質の高い生活を生み出すことになると確信している。